

平成29年度 第3回野生鳥獣被害対策本部会議実施内容及び議事概要

- 1 日時 平成30年2月6日(火) 午後1時から午後2時まで
- 2 場所 長野県庁 特別会議室
- 3 会議
- (1)平成29年度事業の実施状況と平成30年度事業計画について
 - ア 平成29年度実施状況及び平成30年度計画の概要について 資料 1
 - イ 平成30年度主要事業等について 資料 2
 - (2)鳥獣別被害対策等について
 - ア 平成29年度ニホンジカ捕獲対策の実施状況について 資料 3
 - イ 平成30年度ツキノワグマ出没対策について 資料 4
 - (3)被害対策チームの取組について
 - ア 平成29年度の代表的な取組（北信地域野生鳥獣被害対策チーム） 資料 5
 - 内 容：野生鳥獣に負けない地域づくり(シブガキ応援隊)
 - イ 被害対策チームのこれまでの成果
 - (4)その他
 - ア 富士見町産シカ肉の放射性セシウム検出の対応とその後の経過 資料 6

- ・現地検討に関する意見交換
- ・その他

4 議事

事務局及び担当部局から、それぞれ資料等に基づき説明を行い、意見・質問を問うたところ、次のとおり意見・質問とそれに対する説明があった。

発言者	発言内容
事務局	ではただいまから、平成29年度第3回野生鳥獣被害対策本部会議を開催いたします。 本日の全体の進行を務めさせていただきます対策本部事務局の鳥獣対策・ジビエ振興室の江住和彦です。よろしくお願いいたします。 会議に先立ち、副本部長の中島副知事からごあいさつをお願いします。
中島副知事	皆さまお疲れ様です。副知事の中島でございます。 被害対策については、県各部局はもとより、市町村、猟友会など関係者の皆様の積極的な取組をいただいていることに、感謝しております。 森林税の継続の方向が決まり、拡充された事業、新規の事業、近々公表されます。クマの移動経路として河川が使われる実態があり、新たな事業の中で河畔林の整備については、対策につながると考えられます。今年は大量出没予測される年であり、それまでの間にはクマ対策の推進を建設部等とも連携してお願いしたい。 本日は、限られた時間ではあるが、それぞれの立場で、より効果的な対策が実施できるように、活発な意見交換をお願いします。
事務局	ありがとうございました。 それでは、会議は、恒例により林務部長の司会で進めさせていただきます。 山崎部長よろしくお願いいたします。
山崎林務部長	司会をつとめさせていただきます林務部長の山崎 明でございます。よろしくお願いいたします。 まず本日は、率直のご意見をいただきたいのでよろしくお願いいたします。それでは、会議事項の(1)「平成29年度事業の実施状況及び平成30年度事業計画の概要について」を事務局から説明願います。なお、質疑、意見交換は(2)まで説明の後、一括して行いたいと思います。

<p>佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>野生鳥獣被害対策本部事務局長の林務部鳥獣対策・ジビエ振興室長、佐藤繁でございます。</p> <p>「平成29年度実施状況及び平成30年度計画概要」について説明いたします。</p> <p>「野生鳥獣に負けない集落づくり」、「自然や農林業をニホンジカから守るための捕獲の促進」に向け、平成30年度も引き続き、各部局の連携により「防除対策」「捕獲対策」「生息環境対策」を推進し、「野生動物との緊張感あるすみ分けの実現と農林業・自然環境・人身への被害の軽減」を目指すとともに、大量に捕獲せざるを得ないニホンジカを「地域資源として有効活用」するため、「ジビエ振興対策」を推進し「豊かな地域づくり」に還元して参りたいと考えております。</p> <p>生息環境対策は、ツキノワグマの大量出没が発生する可能性があることから、現在、クマ対策員に集落の弱点の検証を進めてもらっており、それを基に、各地の鳥獣被害対策チームにより森林税事業等の既存事業の活用により対応を進めていく予定です。</p> <p>捕獲対策につきましては、「ハンター養成学校」などの取組に加え、「1 捕獲者の確保・育成」の3つめの〇に示す「高度捕獲者育成事業」で、捕獲の進行に伴い行動域や行動パターンを変えて人を避けるようになり捕獲が困難になったシカへの対策として、それらに対応できる高度な捕獲技術者を育成するための育成プログラムの検討を始めたいと考えております。こうした技術による捕獲は、高品質のジビエの生産にも繋がると考えています。</p> <p>ジビエ振興対策では長野市が中条地区に食肉処理加工施設の建設と付帯施設の移動解体処理車及び、軽タイプの保冷車の導入を計画し、県としても事業実施に積極的に関わるとともに、移動解体処理車等の効果的な運用についてのノウハウを取りまとめ他地域へ普及して参りたいと考えています。</p> <p>「平成30年度事業の予算要求」につきましては、御覧のとおりですが、それぞれの部局において、捕獲対策、防除及び生息環境対策、ジビエ振興対策、保護管理体制整備など、合計8億5400万円を要求しております。</p> <p>なお、長野市の食肉加工処理施設の建設等の事業については、先般、国の直接採択事業となってしまうことから、実際には、ジビエ振興対策として1,400万円、合計も6億8千万円となっております。</p>
<p>山崎林務部長</p>	<p>続いて、(2)「鳥獣別被害対策等について」を事務局から説明をお願いします。</p>
<p>佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>「平成29年度のニホンジカ捕獲対策の実施状況」について説明いたします。</p> <p>平成27年度、28年度、29年度の捕獲の状況を見ると、平成29年度分のみ12月末となっておりますが、この段階で昨年度をやや上回っております。このままで推移した場合、昨年度を上回ると思われますが、引き続き、目標の4万頭は大きく下回ることが予想されます。</p> <p>また、地域振興局ごとの前年度比較では、上伊那地域が大きく持ち直していますが、行動域や行動パターンを変えて人を避けるようになった「スレジカ」に対する対応として、捕獲場所を替えるなどの工夫をしたことが一因と聞いております。今後それらの要因を、他の増加地域の原因等とともに分析し、捕獲数の伸びていない地域の捕獲推進に役立てたいと考えております。</p>
<p>佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>ツキノワグマについてです。</p> <p>「平成28年度のツキノワグマ出没状況」についてですが、全国的には東北地方でブナの不作に伴い、大量出没が発生し、秋田県では20人の死傷者が出たこともあり、例年の数倍となる817頭のツキノワグマが捕殺され、推定生息数の6割が捕獲されたのではと報道されました。</p> <p>本県の出没状況は、当初の予想通り、幸いなことにおおむね平年並みで、人身事故は6件7名と全てが山林内での発生になっています。なお、大量出没年の特徴は、里地での出没が、本来であればクマが山に帰り始めるはずの9月にピークとなり10、11月にも続くという形態です。</p> <p>昨年度から再三にわたり本部会議で話題とさせていただいておりますよう、本県の大量出没は、平成18年、22年、26年と4年ごとに発生し、科学的な根拠があるわけはありませんが、今年が前回から4年目に当たることから各部局において対応を検討いただいております。</p>

<p>佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>クマの出没対策は、クマと出会わないための「誘引しない」、「侵入させない」対策とともに、集落周辺の「隠れ場所や移動経路をなくす」ことが重要です。また、クマは、強く誘引物のある場所では複数の個体が機会を窺がっていることが多く、単純に捕獲で出没が収まらないことが多いですが、里に執着するクマについては捕獲も必要となります。</p> <p>「誘引しない」対策の収穫されない果実や廃果、生ゴミ、コンポスト、家畜用飼料等の片付け、誘引物への接近防止のための電気柵による囲いこみ、「侵入させない」対策の農地や集落への侵入防止柵の設置で、これらの対策はこれまでも行われています。これらの集落対策を効果的に進めるため、クマ対策員に過去の大量出没により被害が発生した場所等を中心に、集落点検を行ってもらっており、それらを基に、各地域の鳥獣被害対策チーム、市町村、集落住民で地域ごとに必要な対策を、出没の始まるであろう夏に向けて進めていただきます。</p> <p>「隠れ場所や移動経路をなくす」対策は、集落周辺の緩衝帯の整備やヤブなどの刈り払いで、動物が市街地出没の際の主な侵入経路と考えられる河川沿いの樹林やヤブの除去なども含まれ、実施に当たっては森林税事業の有効活用を図るほか、地域の実情にあわせ来年度から新たにメニューに加わる河畔林整備の有効活用も図ります。</p> <p>県民に対するクマへの対応に関する知識の普及、観光客に対する注意喚起や普及啓発も、当然これらも従来から行ってきていますが、関係部局との連携の下、一層の推進を図ります。</p> <p>いずれの対策も、それらを「適切かつ確実」に行うことが、現在できる最大限の対策であると考えており、各地域の鳥獣被害対策チームを中心に各部署の連携で、出没の始まるであろう夏に向けて進めて行く予定ですので、それぞれの部局の御協力をお願いします。</p>
<p>建設部 蓬田河川課長</p>	<p>先ほどの河畔林整備事業については現在推進体制をとっている。事業としては防災が優先とし、伐採も皆伐でなくあくまでも間伐、流木対策として下流に流れ災害とならないことで進めていきたい。クマに対する効果についてはあくまで副次的ではないかと考えている。いずれにしても出水期の6月までには実施したい。</p>
<p>山崎林務部長</p>	<p>もちろん流木対策であることは承知しているが、間違いなく野生動物にも効果ある。</p>
<p>建設部 蓬田河川課長</p>	<p>年度内にはある程度の個所付けは行いたいと考えている。野生動物の出没対策に効果的な場所などの情報を林務部からもいただきたい。</p>
<p>佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>平成27年度に松本地域の鎖川で、野生動物の出没対策として河川内の伐採について、現地で林務課と建設事務所で調整を行い年度を入れ替えて実施していただいた経過もある。</p>
<p>建設部 蓬田河川課長</p>	<p>必要な情報は現地へも伝えていきたいので、ぜひ情報をいただきたい。</p>
<p>中島副知事</p>	<p>シカの捕獲については、目標を達成していないが、農林業被害はどうか。</p>
<p>佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長</p>	<p>シカの農林業被害額は、防護柵の効果等もあり下がっている。しかし、これまでシカの被害がなかった県の北部へ、高山帯へ被害以外が拡大しており、引き続き捕獲は重要と考えています。</p>
<p>中島副知事</p>	<p>北部、あるいは高山帯とか影響がどう変わっているのか。整理をお願いしたい。</p>

環境部 宮原自然保護 課長	高山帯についてはデータがありません。南アルプスは食害対策協議会、北アルプスでも関係機関と組織化して対策を考えてゆきたい。中央アルプスでは駒ヶ根市が中心となってすでに動き出しています。
中島副知事	県北部では北アルプスだけではなく里地での対策も必要では。北信、長野エリアの被害対策チームとも、情報共有して取組をお願いしたい。
山崎林務部長	シカの対策も初動が大切なので、よろしくお願いします。
観光部 丸山山岳高原 観光課長	クマ対策については、観光面でも安全対策しっかりと周知を行いたいので、情報はできるだけリアルタイムでいただきたい
教育委員会 林参事	資料にあるとおり、クマの生態や注意事項をしっかりと伝えるため、必要な情報を現場に流していきたい。 危険な箇所の防除対策は、学校だけではできないので、地域とも連携を進めていきたい。
山崎林務部長	学校としてできないところは、現地の林務課など被害対策チームへ連絡していただければ、必要な支援をしていきたい。
環境部 宮原自然保護 課長	自然保護ボランティアや自然公園のレンジャーなどからのPRもしていきたい。 環境保全研究所では、過去の豊凶調査や植生のデータを整理して、地域ごとにシュミレーションして、大量出没のメカニズムが科学的に説明できないか試みている。
中島副知事	PRツールとして、パンフレットやHPなどの媒体の整理、リニューアルできればいいのではないか。
山崎林務部長	貴重な御意見ありがとうございました。 それでは、この平成30年度の対策及び計画についてご確認いただきましたので、関係部局連携のもと、効果的な被害対策の実行をお願いします。 それでは、続きまして、(5)の「野生鳥獣被害対策の取組事例」について事務局より説明をお願いします。
佐藤鳥獣対 策・ジビエ振興 室長	1月25日に林業総合センターで各地域の鳥獣被害対策チームの取組状況の発表と意見交換を行いました。 また、今年で対策チーム発足10年になりますので、2日がかりで、これまでの振り返りとして、今までの活動がどう地域に根付いたか、もしくは立ち消えになったのか、それを踏まえて今後の課題について検討を行いました。 その中で、被害対策が定例的なものとして日常化し、特に意識することなく継続されている地域もあれば、当初の趣旨どころか対策そのものが立ち消えてしまって引き継がれていないという地域もあり、概して、地域が自分ごととして盛り上がった場合には対策がうまく継続するが、行政主導の場合は立ち消えやすい傾向があるようです。 今年度の取り組み状況の発表は「実施したもの、一定の結果が出たもの」でお願いしたところ、対策本部員の皆さんにお聞かせしたい発表が多かったのですが、先程の議題のクマの問題もありますので、北信地域における取組みについて発表してもらいます。

山本鳥獣対策専門員	<p>北信地域振興局林務課林務係 鳥獣対策専門員の山本栄治です。</p> <p>北信地区では、人口減少や高齢化等により森林の手入れがされなくなったため、山と里の境界線が曖昧になり、野生鳥獣が畑などを荒らす被害が出ている。そのため、一部では、集落電気柵を設置し効果を上げている集落もあるが、被害対策が進んでいない地域も残っているなどの途上にある。</p> <p>対策が進んでいない地域では、高齢化等で収穫や伐採ができない柿の木が放置されており、ツキノワグマの誘引につながっている集落がある。これらの集落周辺の渋柿を、下高井農林高校の生徒と社会福祉法人の方でシブガキ応援隊を組織し、収穫し干柿に加工しました。なお、この事業実施に当たっては、地域振興推進費を活用し、安心して生活できる基盤整備として進めました。</p> <p>この活動は、地元紙や、ラジオにも取り上げられ、柿等の放置がクマの出没につながることを周知できるとともに、高校生には、クマの生態を学べただけでなく、社会福祉施設との協働は貴重な体験となり、生徒の良いキャリア教育にもなったとの評価もありました。社会福祉施設でも、干柿として販売できる場所につなげていきたいとのことでした。</p> <p>所有者からは、下高井農林高校の参加による柿の収穫は良いと言われ、来年もお願いしたいと意見もいただいております。</p>
保健福祉部 清澤食品・生活衛生課長	干し柿として売るときに、食品としての表示とか協力できるかと
中島副知事	こういう事例が各地でできればよいので、信州学の取組との連携、コミュニティースクール等とのマッチングなどといった学校との連携により進んでいってほしい。
教育委員会 林参事	地域のことを学校で学ぶ取組は行われている。学校行事などは年度内に決まっているので、その時期にいきなり声をかけられても対応ができないのが実情。早めに声をかけていただき、地域で定着できればよいと思う。
中島副知事	他の地域の対策チームからも学校などに早めに声をかけて取り組んでもらえるとよいのでは。
山崎林務部長	続きまして、 (4)「その他」について事務局から説明をお願いします。
佐藤鳥獣対策・ジビエ振興室長	<p>昨年末に富士見町産のシカ肉から放射性セシウムが検出された件は、各部署の皆様には大変お世話になりました。</p> <p>お陰様で、富士見町において出荷されるシカの全頭検査体制が整い、12月7日に国の原子力災害対策本部から出荷制限指示が出されましたが、同日付で検査結果がOKだったものについての出荷が認められました。現在富士見町の町民センターにおいて検査を行っていますが、先月末現在で、検査した63検体が全て不検出となっております。</p> <p>また、その後の対応で観光部をはじめとする各部署の協力をいただく中で、関係業者等への働きかけやイベントの開催により、現在では、放射性セシウム検出前の状況に、ほぼ回復しております。</p> <p>軽井沢プリンスホテルのジビエフェアは、富士見産の肉を使用して行う予定だった本来のフェアは検出の直後から中止になってしまいましたが、2月23～25日に再開するということでの試食会に昨日も副知事に御参加いただきました。</p> <p>今後もいくつかの企画により、ジビエシーズンもそろそろ最後になりますが、盛り上げてまいりたいと考えております。</p>
中島副知事	放射性セシウム検出の影響は正常化に戻りつつあります。ぜひ安全性の担保し、ジビエの持続的な活用を発信していただきたい。

山崎林務部長	ありがとうございました。それでは、最後に全体を通してご意見、ご質問がありましたらお願いします。
中島副知事	平成30年度クマ対策は、本日の議論、第1回の本部会議の意見を踏まえて、資料やデータを整理して、被害が最小限になるよう取組めるようお願いしたい。 また、シカ対策については、いろいろ状況が変化しつつある。変化しつつある状況への対策をお願いしたい。
山崎林務部長	まだまだ、ご意見あろうかと思いますが、時間の関係もございますので、終了とさせていただきます。
事務局	どうもありがとうございました。 これで、第3回野生鳥獣被害対策本部会議を閉会いたします。

5 閉会

